

## 平成28年度の年間の活動

### 1. 年間行事

#### 1) 定例会議

毎月5日に定例会議を開催しています。協議会の幹事が集まり、年間行事の進捗、手伝いの日程調整等について話し合いを行っています。また、定例会議では外観の改修を希望する物件や空き家の状況についても随時話し合われています。5月には総会、1月には新年会と全会員が集まる会議も開かれています。

#### ◆年間行事◆

2月～3月 ひな祭り

4月～5月 端午の節句まつり、協議会の総会、おいでゃんせ祭り

6月 ほたる祭り

7月 七夕飾り、夏休みこども寺子屋事業

8月 お盆にキャンドルナイト、地区の夏祭りに協力

9月 お月見会

10月 おいでゃんせ祭り

11月 地区の神社の祭りに協力

12月 年末から正月にかけてキャンドルナイト

1月 協議会の新年会



#### 2) おいでゃんせ祭り

毎年2回(5・11月)に同じ町内の「首なし地蔵」の大祭に合わせて開催しています。当初は協議会による模擬店だけでしたが、現在はフリーマーケットなども開催し、多くの方が参加してくださり、参拝者の方々に喜んでいただいています。

#### 3) ほたる祭り

石州街道出口地区を流れる出口川にかつてホタルがいたことから始まった「ほたる祭り」は13年目を迎えました。ホタルを育て放流し続けた現在、ホタルが自生するまでになりました。2007年に整備された「夢ほたる公園」を会場に、地区内外から大勢の方が訪れます。



## 2. 年間行事から発展した活動

### 1) ひな祭りの飾りつけ

ひな祭りの飾りは2月～3月にかけて街道全体で行います。住宅の軒先にお雛様を飾ったり、花餅を製作して飾りつけを行います。今年は、「道の駅 びんご府中」(地区外)に出向き、観光客の方を対象とした花餅づくりの体験教室を開催しました。



### 2) 防災活動

石州街道出口地区は昔ながらの木造の町屋が立ち並ぶ地区です。また、自動車も通らない小さな路地も多数あり、府中市消防団の協力の下、地域の住民が参加しての防災訓練を行っています。



### 3) 観光ボランティア

観光ボランティアでは年間10数件の依頼を受けます。「首なし地蔵」から石州街道出口地区の成り立ちなど1時間程度で案内をしています。

最近では歴史的な町並みを残す地区からの視察もあり、石州街道出口地区の活動や制度について意見交換する場も設けるなど、観光ボランティアだけでなく活動も行っています。



#### 4) 夏休みこども寺子屋事業

夏休みには5日間にわたり、子どもたちに様々な体験を提供しています。今年は歴史民俗資料館への訪問、陶芸教室、習字教室、藍染め教室などを行いました。協議会は企画から協力期間への依頼、バスの手配などすべての準備を行い、またメンバーは当日の引率や指導を行いました。



#### 5) その他

その他の活動として、地区内にある空き家の清掃等の管理を行ったり、出口地区への転居を希望する若者への支援も行いました。また、出口地区に隣接する本通り商店街を中心としたイルミネーションのイベント「いこルミネ」（平成28年12月3日～25日開催）への協力も行いました。



## 受賞を契機に新たに取り組んでいること

### 1. 銀の道にちなんだ広域連携活動

2011年の「銀の道フェスティバル・飛脚プロジェクト」の開催前から続いている広域連携活動で、本年度は「銀の道」ウォークを行いました。三次市から府中市の出口地区まで多くの方に参加していただき、数日に分けて、徒歩で銀の道をたどりました。協議会ではイベント前に草刈りなども行いました。引き続き、多くの方に知っていただくために、広域連携活動を進めていきます。

### 2. 空き家の活用に向けた歴史的建造物の見直しと修景事業の評価

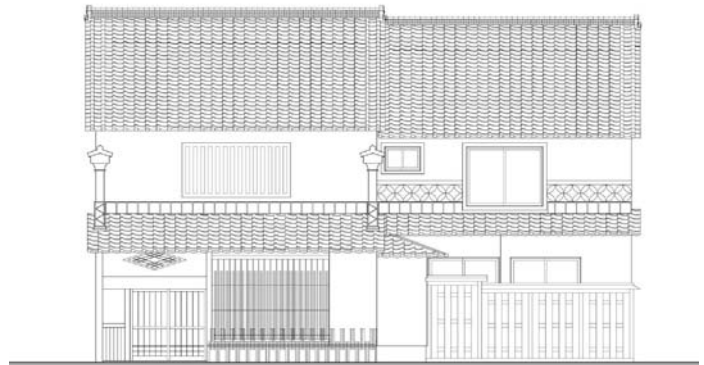
#### 1) 歴史的建造物の見直し

石州街道出口地区ではこれまで歴史的な町並みが残り、修景事業が進められましたが、歴史的建造物の内部の調査は行われてきませんでした。

そこで、空き家活用が検討されている歴史的建造物の建築調査を行い、改めて出口地区の町並みの価値を見出し、活用方法に活かしていきたいと考えました。

建築を学ぶ大学生等に協力してもらい、1軒の建築調査を実施しました。

その建物は、新旧の二棟が合築された建物であり、新邸部分は一部改編されていますが、旧邸部分は改築された部分も少なく、大正期に建てられた屋敷建築の特徴を数多く残しており、石州街道出口地区の特徴を表す代表的な歴史的建築物の一つであることが分かりました。この調査で得た結果を基に、協議会から入居者に建物の持ち味を生かした活用や改修について助言していきたいと考えています。



## 2) 修景事業の評価

これまで、全住民を対象とした修景事業の評価調査を2回(2008年、2014年)実施してきました。しかし、修景事業の補助対象となった所有者当事者のみを対象とした調査は行われてきていませんでした。

そこで、修景事業の補助対象となった所有者らがどのような経緯や意向で修景事業に参加したのかを聞き取り調査を行い、今後景観保全の継続に役立てていきたいと思われました。こちらにも建築を学ぶ大学生等に協力してもらい、歴史的建造物の建築調査と並行して進められました。

インタビュー調査ではきっかけと基準・デザインについてまとめました。家屋の改修のタイミングで補助を得られたと評価する事例もありましたが、周囲からの勧めがあり、予定になく実施した事例も見られました。また、基準も厳しいと評価する事例もあるが、本来は希望する外観ではないとする事例もありました。修景事業対象者は個々の事情で、また家族間でも意見が異なることがわかりました。

これまでのアンケート調査では分からなかった個々の事情やきっかけがあることがわかりました。

表 修景事業対象者へのインタビュー結果(一部)

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 修景のきっかけ<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業に関係なく、家族の意向で実施した(新築、老朽化や雨漏り)</li><li>・ 世帯主の意向(家族への同意はなし)</li><li>・ 周囲からの勧めがあった(協調性)</li><li>・ 修景に関心があった</li><li>・ 子どもの代まで使えるように</li></ul></li><li>➤ 修景基準・デザイン<ul style="list-style-type: none"><li>・ 満足(外観に満足、基準に不満なし)</li><li>・ 他にやり方がなかった(段差が多い、建て替えがしづらい)</li><li>・ 自身はモダンな外観が好み</li><li>・ 基準は厳しい</li><li>・ 事業者任せ</li></ul></li></ul> |
|---|

アンケート調査からは全住民(平成27年調査)と本調査の修景事業対象者(世帯員を含む)を比較すると、事業の認知度、事業の評価は修景事業対象者の方が高く評価していることがわかりました。しかし、修景事業に対しては必ずしも高い評価ではありませんでした。

また、事業の効果についても修景事業対象者の方が高く評価しており、特に人口や住みやすさなど肯定的にとらえていることがわかりました。

今後も詳細の分析を行い、修景基準の見直しにつなげていきたいと考えています。

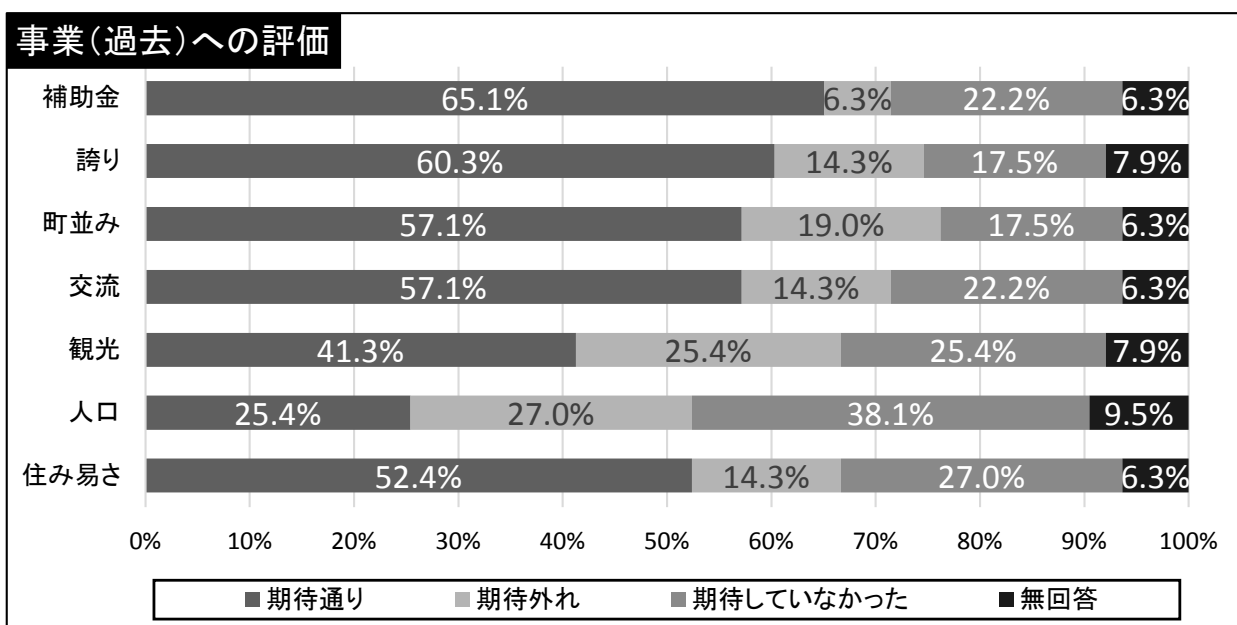
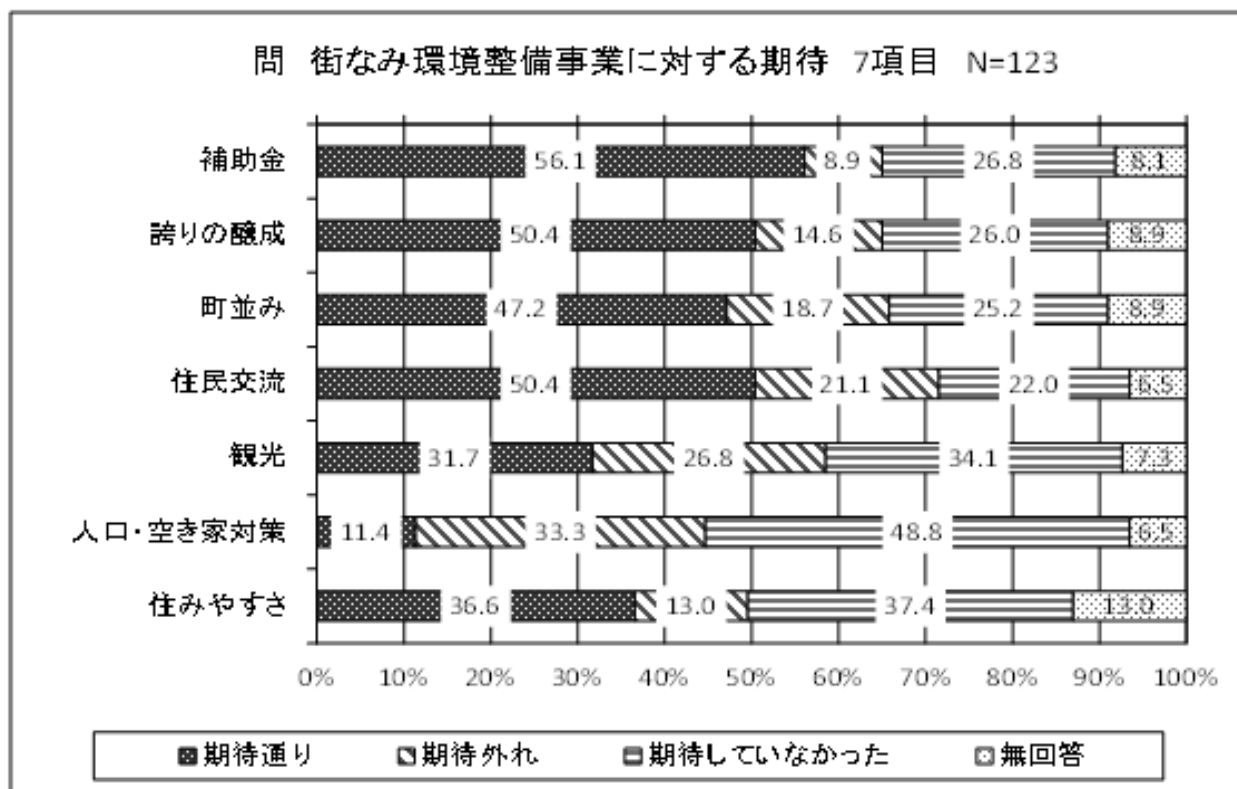


図 平成27年調査(上)と本調査・修景事業対象者(下)の比較による事業への期待

## 調査検討費の使途

- **景観保全や交流事業にかかる費用**
  - ・ ひなまつりや七夕まつりでの飾りの材料費
  - ・ 夏休み子ども寺子屋事業の交通費や講師料
  - ・ 公園や観光駐車場の整備のための材料費
  - ・ 空き家の清掃作業
  - ・ 事務費（人件費，印刷等）
- **広域連携活動に関する費用**
  - ・ 打ち合わせやイベントに関する交通費
  - ・ ガイド育成勉強会の講師料
- **歴史的建造物の見直しや修景事業の評価の調査にかかる費用**
  - ・ 調査協力者の旅費
  - ・ 歴史的価値、修景事業の評価についての専門的知識の提供

# 近い将来取り組まなければならない課題

## 1. 景観保全の持続

石州街道出口地区まちづくり協議会では、街なみ環境整備事業の終了後、修景基準を継続していくことが合意されました。ここ数年の外観の改修では協議会への相談があり、進められてきました。しかし、今後は住民の世代交代が進み、また空き家も増加していることから、修景基準について十分に理解されていない建物の所有者が増加していくと考えられます。今後は、そうした所有者の方々にも、修景基準や協議会の活動について理解をしていただけるよう、説明をしていく必要があると考えます。

また、歴史的な建造物の建築調査を進め、外観だけでなく、建物全体の歴史的な価値についての評価を行い、住民に広く周知を図っていく。また、これらの建物の活用時には内部の改修が適切に行えるような仕組みづくりが必要である。

## 2. 石州街道出口地区での活動を他の地域に広げていく

石州街道出口地区はこれまで様々な活動を行ってきました。今後は府中市の他の地区にも広げていくことが、地域全体の魅力向上につながっていくと考えます。

一つは修景事業です。石州街道出口地区だけが古い町並みを残しているのではなく、隣接する地区にも多数の歴史的な建造物があります。現在少しずつ活用されていますが、面的な景観保全が一層の魅力向上になると考えます。

また、今年度はイルミネーションを隣接する本通り商店街にも広げて行いました。石州街道出口地区で始まったイルミネーションが地域全体に広がりを見せています。今後も協働してイベントを行うことが、若い世代の人たちの活躍の場になったり、移住者を呼び込むことにつながるのではないかと考えます。